

開校当初(昭和48年)



開校10周年(昭和58年)

# ふなばしなつみ物語



太古から  
現代まで

題字 岸 徹男

## ■御存知でしたか？

観察池の脇に、こんな遺跡記念碑が建っています。(写真参照) 昭和四七年当時、船橋市では、船橋市夏見町二丁目五番地(現夏見台二丁目一・二番地)にすでに過密であった八栄小学校より分離新設する形で仮称「八栄北小学校」を建築予定でした。市教育委員会施設課から連絡を受けた社会教育課は、現地の表面調査を行い、その結果縄文時代前期および古墳時代後期の竪居址の落ち込み約十ヶ所を検出し、早速調査団を作りました。

## ■なぜ「八栄北遺跡」という名に？

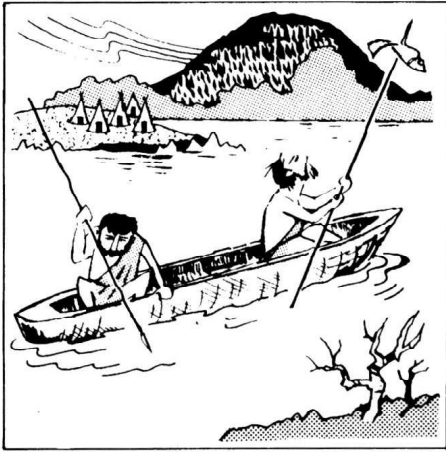
八幡一郎氏を団長とする調査団により、昭和四七年七月三日より発掘調査が行われ、同年八月十六日に終了しました。この遺跡は、船橋市の市街地より北へ約二・五kmの台地で、この一帯は八栄村(東夏見・西夏見・七隈・米ヶ崎・高根・金杉・三咲)と呼ばれていたため、「八栄北遺跡」と命名されました。そして、関係機関の最終決定をみて、母校「船橋市立夏

見台小学校」が当地に創立されました。

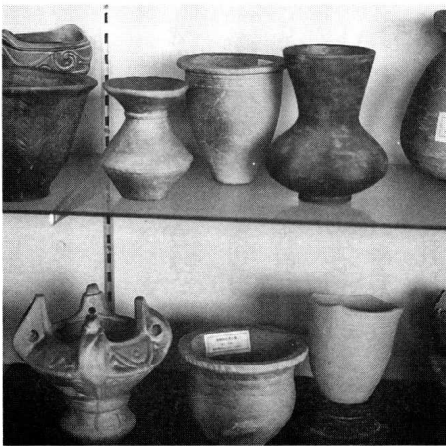
## ■何が発掘されましたか？

調査団のまとめた資料によると、「遺り得たものは僅かに石器だけである。なお、住居址内および周辺から出土した縄文土器は、前期中葉以降、末頃までの所産とされるものが大半である。なお、主体を占めた黒浜式土器の特色は『く』の字形に膨らんだ胴部を持ち、頸部で一旦つぼみ再度口縁に向かって朝顔形に開く深鉢形である。文様構成は破片の九割以上が縄文で施文されていた。土師器は完成品が少なく、器種は坏、高坏埴、壺、甕、甑と一応揃っていた。鬼高期前半の所産とされた第三号居址の特色は、まず規模の面から八栄北集落中最大であり、遺物の面から滑石原石、屑、白玉未完成品、および砥石などが出土した。

八栄北遺跡周辺でも外原、夏見台等の遺跡が挙げられるが、若干の時間差はあれ、広い観点からみれば同一単位に近いものとして包括できる遺跡である。」(発掘調査報告書「八栄北」船橋市教育委員会編)



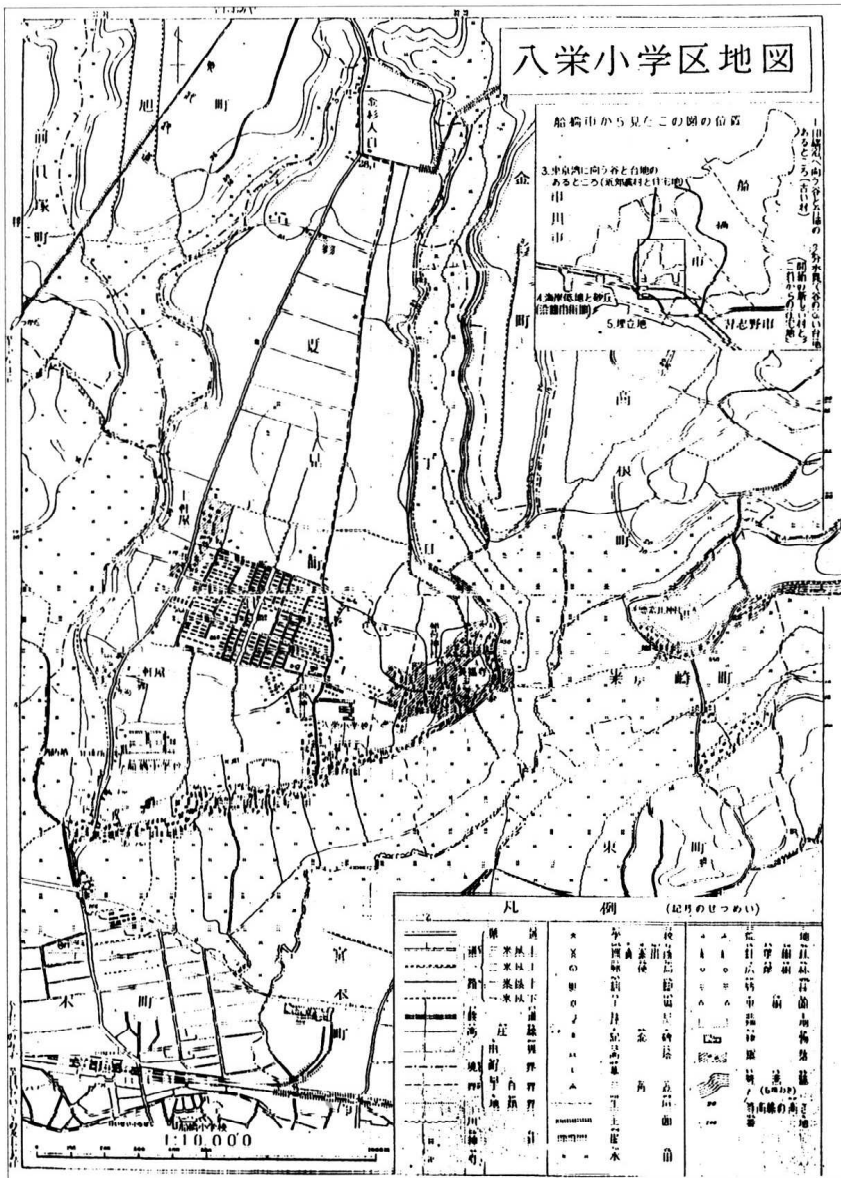
遺跡記念碑



八栄北遺跡より出土した土器(社会科資料室)

四階の社会科資料室には、その時出土した土器や、近隣の方々が寄贈して下さったものが沢山展示されています。

夏見台小の建っているこの土地に、今から約六千年も前から先住民が住みついて、石器を中心にした原始文化を営んでいた。そして生活スタイルは様々に変化し、その頃と較べようもない程文明が発達した現代に、同じ様に人間が生活を営み、七年後の二十一世紀に大きくはばたこうとしている子供達が勉強している。——考えただけで何か時間の悠久さにワクワク



してきませんか？  
では、少し外に出て、船橋市の移り変わりや夏見地区を探索してみましよう。

### ■船橋の地名のいわれを御存知ですか？

「現在船橋市は八五平方キロの面積を持ちますが、当初の地名としては、ごく狭い場所をさすものでした。

古代、現在の本町通りの北側は、沼や湿地が広がっており、そこを今の海老川の原形の川が流れ、砂州の東端から海に注いでいた。その川は今よりはるかに広く、水量も多かった。そこへ宮本の台地から、海神方面に行く道が通じ、川には船を並べて上に板などを渡した橋が設けられ、それが地名となっていた」（綿貫啓一「郷土史の風景」）

これが「船橋」の語源についての通説です。ところが、地名辞典類の中には「船の停泊のために棧橋を設けたところ」と説くものもあって、「わが船橋は両説いずれも当てはまり、どちらとも決めがたい」と言われています。

「当船橋の名が初めて見える文献は、鎌倉幕府の公式記録である「吾妻鏡」で、文治二年（一一八六）中に「船橋御厨」として記されている。

江戸時代には、五日市村・九日市村・海神村に分かれていたが三村を総称して船橋村とか船



現在の夏見地区（平成4年）

橋宿とも称した」（同前）その地域が明治二三年に船橋町となり、やがて昭和一二年に近隣四町村都市と合併して船橋市となり、昭和二八・二九年に一町二村を合併し現在の船橋市域となりました。

### ■夏見の地名は？

郷土史家・綿貫啓一さんの説によれば、夏見は古くから知られた地名だそうです。それは夏見と周辺が、平安時代の保延四年（一一三八）に伊勢神宮の荘園となつて、記録に残されたからです。

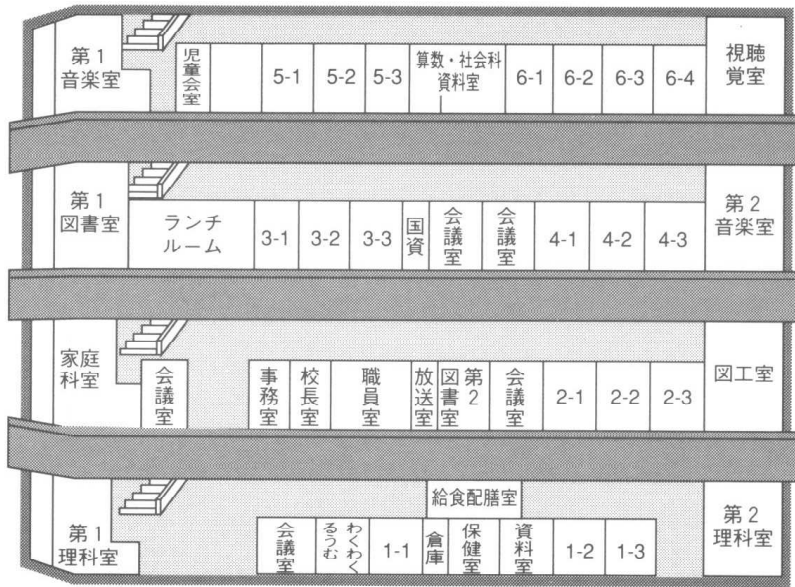
夏見の語源については諸説があります。①日本武尊ヤマトタケルが東夷征伐のおり、当地で神鏡の輝く船を見たのが夏であったから、②景行天皇が当地方に行幸されたとき、菜摘みをしていた里人に地名をお尋ねになつたが、都の言葉がわからない里人は「なつみ」とお答えしたから、③昔夏見の南方前面が海の時代に「南津海」と言つたのが、「なつみ」に縮まった、④昔夏見の前面が海であった時代に、磯菜を摘んで神にささげたから、⑤「なつみ」は「肴つ霊」で、魚や野菜などの副食物の神のことであろう、等であります。①②③説はあくまで「話」です。④⑤説は多少可能性があります、今一つ決め手に欠ける様です。

### ■どのようにして発展していったのでしょうか？

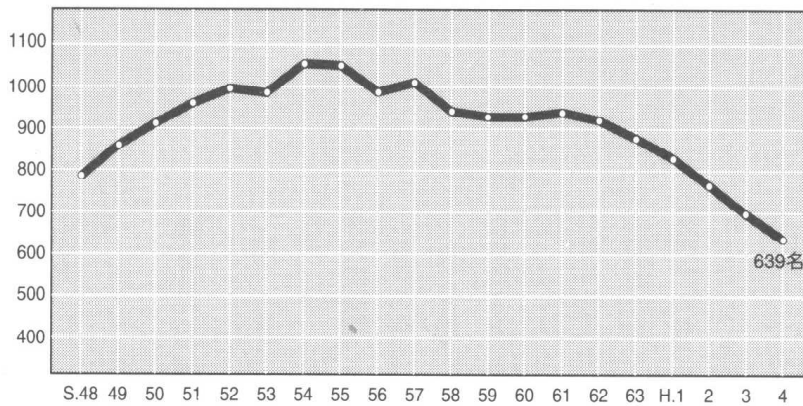
夏見の台地のうちでも最初の人家は恐らくは東方長福寺の辺から出来始めたものと思われまふ。江戸時代は、東夏見村と西夏見村に分かれていました。明治二三年に八栄村が成立すると両夏見村はその大字となり、昭和一五年に夏見町一丁目・二丁目に変わりました。第二次大戦中、陸軍防空学校教導隊照空訓練所があり、台地に軍需工場員のための住宅（旧夏見営団）が建設され人口が増加していきました。

昭和二三年に船橋中学校が八栄中学校と併合、当地に移転。三六年に夏

夏見台小教室配置図（平成4年度）



20年の児童数の移り変わり



見公民館が完成。四〇〜四七年に運動公園運動場、陸上競技場、プール、体育館が完成し、公共施設も充実してきました。  
夏見地区の交通機関としては、昭和二八年に夏見営団行きバス路線が開通し、昭和四三年に夏見台団地行き、昭和四六年金杉団地行き、五〇年コープ野村行きが開通し、ますます便利になり、住宅地として開けていき、周辺の道路網も京葉有料道路、県道船取線、湾岸道路等がしだいに整備されていったのです。

このように、夏見も二軒家、七軒家、三軒家のバス停の地名通りの家並から、公共施設の充実に伴い道路が整備され、バスや電車の交通手段が完備し沢山の家が建ちました。畑など昔のままの姿を残している場所もありますが、学校周辺の景観も大分変わりました。  
昭和四八年に一五学級で始まった夏見台小学校も人口の増加とともに増築をすすめ、五四年には二八学級にまで増加、現在の規模になりました。しかし、近年の出生率低下、農地から宅地化への行政上の難しさ、地価高騰の影響、転勤など、様々な理由から人口増加にストップがかかり、平成

四年度には一九学級に減ってしまいました。そのため、空いた教室は今、ランチルームや図書室、資料室、相談室などに利用されています。

\*御厨……古代・中世、皇室の供御や神社の神饌の料を献納した、皇室神社所属の領地

\*\*行幸……天皇が外出すること

参考資料

- 1 『八栄北』船橋市教育委員会編
- 2 『郷土史の風景』綿貫啓一
- 3 『船橋の歴史と文化財』船橋市教育委員会編
- 4 大竹三郎氏・談話

——夏見町の交遷について——